

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493700023
法人名	医療法人社団 平平会
事業所名	グループホーム ふあいと青葉
訪問調査日	平成19年6月12日
評価確定日	平成19年7月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1493700023
法人名	医療法人社団 平平会
事業所名	グループホーム ふあいと青葉
所在地	227-0036 横浜市青葉区奈良町2467-5 (電話) 045-960-0788

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成19年6月12日	評価確定日	平成19年7月31日

【情報提供票より】(平成19年 5月 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 7月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 9 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 10.5 人	

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	34,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (360,000 円)	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1260 円	

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 79 歳	最低	62 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	緑協和病院、金子歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは医療法人社団平平会の経営である。母体は鎌倉の橋本クリニックであり、医療に関してのノウハウがある。平平会は有料老人ホーム「はなみずき」、グループホームは「パティオつくいけ」「ふあいと宮沢」「ふあいと勝田」「ふあいと青葉」そして5月末オープン「ふあいと天神橋」など福祉に関する事業を展開している。医療に関するノウハウを活用し、橋本クリニック院長先生が各グループホームの訪問診療を担当し、24時間対応体制を整備し、医療連携加算を実施し、ご利用者さんのターミナルケアについてはご家族が希望されれば対応出来る体制を整えている。生活保護、男性利用者の受け入れを拒まない体制は1つの大きな特徴となっている。小田急が開発した住宅地で、こどもの国、玉川学園から25分と離れているが、近所に緑も多く、区画内にバスを乗り入れさせない高級住宅地である。法人内相互の連携は強く、中核となる「はなみずき」があるのでここをベースとした研修会、勉強会を持ってレベルアップに努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	設立以降1年1年弱であり、今回が初めての外部評価であるが、前述の如くグループ内にネットワークがあり、本部や各ホームとの連携があるので評価の意義については充分理解されている。「パティオつくいけ」「ふあいと宮沢」が先行して開所しているため、改善課題としては先行ホームでの課題を念頭に置いている。立地条件で、ご近所は高級住宅地であり、ご近所との交流のあり方、気使いを課題として挙げている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価なので、ホーム内のミーティングを開き、自己、外部評価を受け今後のサービスにつながる改善点などに気づき、積極的に活かして行きたいと話合っている。まだ、発展途上のホームであるため、この外部評価を機に職員を含めてホーム全体で飛躍的に成長されることを期待する。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	横浜市は運営推進会議の開催が遅れ、どのホームも実施出来なかった。今年度になってようやく運営推進会議開催に向けての横浜市の方向性が出されるようで、運営推進会議開催に向けての横浜市の説明会が5月下旬にあった。当ホームでは7~8月に実施することになっている。地域包括支援センターが中心で行われるようで、これに自治会長、老人クラブ会長、それに民生委員と家族を加えたメンバーを考えている。偶然、民生委員の人がこのホームで働いていて連絡があり、地区の担当の方に出席して頂くつもりである。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	生活保護の利用者の比率が高く、ご家族が近くにいる訪問してくれる人は限られている。家族会などを組織するとかえって片寄った意見になる可能性があるため、敢えて家族会を作らず、ご家族が近くにいる訪問してくれる方のご家族については来訪時に個別に、充分にお話を聞くようにしている。勿論、重要な意見・苦情については介護計画や日常のケアの場面で取り入れ改善に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、情報等頂いている。地域には出来るだけ協力を惜しまない気持ちで接し、可能な限り地域との交流を心がけている。町内会の活け花サークルや囲碁サークル、町内会館で行われる歌謡サロンなどにも参加している。前述のように高級住宅地であり、個別にご近所との交流を積み重ねているが、地域ケアプラザが近く、ホーム長がOGであることから地域ケアプラザの積極的な活用が期待されている。地域ケアプラザの活用で地域との密着度もかなり増すことが期待出来る。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者を中心に、グループホームケアについて十分理解し、ふあいと青葉としてのあるべき方向性を明記して、日常業務を行う上でも繰り返し職員に説明している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設時より、管理者は常に理念を念頭に置き、日々の介護にあたる上で必要な、基本的な考え方を職員に説明し、共感・実現出きる様努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、情報等頂いている。地域には出来るだけ協力を惜しまない気持ちで接し、可能な限り地域との交流を心がけている。町内会の活け花サークルや囲碁サークル、町内会館で行われる歌謡サロンなどにも参加している。高級住宅地であり、個別にご近所との交流を積み重ねているが、地域ケアプラザの活用で地域との密着度の促進を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開所1年が立ち、ようやくグループホームらしさが形作られるようになった。今回が初めての外部評価なので、ホーム内のミーティングを開き、自己、外部評価をうけ、今後のサービスにつながる改善点などに気づき、積極的に活かして行きたいと話し合っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	横浜市は運営推進会議の開催が遅れ、どのホームも実施出来なかった。今年度になってようやく運営推進会議開催に向けての横浜市の方向性が出されるようで、運営推進会議開催に向けての横浜市の説明会が5月下旬にあった。当ホームでは7～8月に実施することになっている。地域包括支援センターが中心で行われるようで、これに自治会長、老人クラブ会長、それに民生委員と家族を加えたメンバーを考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	奈良地域ケアプラザが近く、ホーム長がOGであることから地域ケアプラザの積極的な活用に心がけている。地域ケアプラザの活用で地域との密着度もかなり増すことが期待出来、教えを受ける機会も多く設けられている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時を利用したり、電話などで折に触れ、連絡を密にする努力をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情を遠慮なく表明していただける関係作りに努めている。契約書にも、相談窓口の連絡先を明記し、また匿名でも意見を表明できるよう、玄関先にご意見箱を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在まで職員の異動は無いが、産休に入る予定の職員があり、入居者さんにもお知らせし、安産を祈って喜んでいただいている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修に参加する機会を積極的に設け、職員自身からの参加希望も受け付けている。日常業務の中でも、個々の職員の経験や能力に応じて、認知症介護における留意点を随時指導し、また、法人内の他のホームの見学なども実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設、グループホームとの交流を始めている。また、新しいホームという事で、外部同業者からの見学申し込みも多く、見学を通して同業者の目に触れる事で、職員の意識の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホーム見学の際、既入居者さんの輪に加わって、お茶を飲んだり一緒に談話したりという機会を作って、グループホームの雰囲気になじめるよう配慮している。入居前に3～4回の見学を経験した入居者さんも、複数いる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常業務で常に念頭においている視点は、職員は介護するのではなく、共に生活するという事である。昔からの伝統行事のこと・日常生活、家事に関すること・人と人とのかかわり合いの方法など、入居者から学ぶ事が多々ある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との面談内容、日頃の訴え・行動から鑑みたご本人の意思を総合的にアセスメントし、ケアに生かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人とスタッフ、家族とスタッフそれぞれに話し合う機会を持ち、意見交換をした上で、ケアプランを作成している。		生活保護の利用者の比率が高く、面会の頻度の少ない家族も多いため、話し合いの機会を確保できる工夫して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実現可能なプラン作成を心がけている。ご本人の状況に変化があれば1ヶ月から、変化がなければ3ヶ月を目安に、随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前の相談の段階から、経験豊富な相談員が、行政や他事業所の利用も紹介しながら、最善の支援を心がけております。認知症デイやショートステイは年数の関係もあって出来ないが、見学や入居を前提としたステイ、他のサービスの紹介等の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業母体である橋本クリニックの全面的な協力を得ながら、週1回の医師の往診、2週に1回の看護師の訪問の他にも、提携歯科の往診や近隣の医院への通院を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時契約において、医療加算と終末期医療に関する説明、同意書を交わしており、また必要な時期には面接や電話連絡において医師、ホーム、家族、ご本人の意識確認と方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に年長者に対する言葉かけになるよう努め、誘導の必要な方にも、指示的にならないさりげない声かけを行っている。また記録はプライバシーを配慮してインシヤルで記する事を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの入居者さんのペースを尊重した暮らしに努めている。入居当初は生活のペースがつかめず、戸惑っていた入居者もいたが、現在は個々の日課が自然に出来上がり、同じ空間で安心感を得ながらも、個々の趣味や日課に没頭する姿もみられ、自然で家族的な雰囲気の流れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日活発な調理風景が見られる。入居者様はほぼ全員が参加、張り合いに感じている。男性入居者も自然な形で、配膳や片付けに参加している。また、日々の入居者様の話題の中から、食事の好みや思い出の味を聞き、再現し、皆で味わう喜びを感じて頂いている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には午後から入浴して頂いているが、寝る前を希望する方の意向にも沿っている。入浴を好まない方にも、声かけを工夫し、体調に応じて無理強いにならないよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各入居者さんの生活歴を鑑み、昔とった杵づかを活かし、役割や娯楽を日課に取り入れる工夫をしている。ぬか漬け作りや、家庭菜園、カラオケ、油絵、囲碁将棋、地域の生け花教室への参加など、入居者様主導で多彩な趣味活動に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調に応じて、近隣の散歩、食料品の買い物や外食など、できるだけ戸外へ出かけることにより、体力や歩行能力の維持に加え、気分転換や日々の充足感を得られるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	構造上、玄関はオートロックのドアだが、庭の水まきや散歩など、職員の見守りの上で、自由に出入りできる雰囲気や環境を大切に、閉塞感がないように配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の避難場所を確認し、緊急移動用の車椅子を確保している。また、緊急時は職員を招集できるよう、連絡網を作成している。以前から住んでいる地域住民の親身な協力が、緊急時にも生かされることを期待している。		地域の防災訓練などには積極的に参加したいと考えております。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通して食事量・水分摂取量を記録、一月に一度は体重測定をし、低栄養や脱水におちいらないよう配慮している。糖尿病などで栄養管理の必要な方にも、医師の指示のもと、適切な支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適性に配慮してBGMになじみの曲を流し、季節の花を飾るなどの工夫をしている。日差しはレースのカーテンで調整している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居段階で、ご自宅から使い慣れた家具類を持ち込んでもらい、馴染みの雰囲気、自宅であるという実感と安心感を得られるよう、配慮している。仏壇や、思い出の写真なども飾り、これまでの生活の延長として暮らせる配慮をしている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	医療法人社団 平平会
所在地 (県・市町村名)	横浜市青葉区奈良町2467-5
記入者名 (管理者)	中山 倫子
記入日	平成 19 年 6 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者を中心に、グループホームケアについて十分理解し、ふあいと青葉としてのあるべき方向性を明記して、日常業務を行う上でも繰り返し職員に説明しております。	○	今後も積極的に地域に溶け込む努力を続けていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設時より、管理者は常に理念を念頭に置き、日々の介護にあたる上で必要な、基本的な考え方を職員に説明し、共感・実現出きる様努力しております。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	契約時には入居者様とご家族にも詳しく説明しています。	○	地域の人々との交流が活発になってきている。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の折には挨拶を交わし、ゴミ集積所の清掃を勧んでするなど、職員自らが積極的に地域に溶け込む努力をしています。	○	近くの公園で週3回実施しているラジオ体操に参加するなど交流が密になっている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の一員として、地域の盆踊りやどんと祭にも招かれ、自然な関わりの中で、徐々に地域の方々に受け容れられてきました。	○	夏祭りに参加するなど、地域の人々とのかかわりあいが強くなってきている。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>ホーム内の季節行事に近所の高齢者をご招待して、ひとときを共に過ごした事があります。このような機会を更に広げていきたいと考えております。また、第一回介護予防セミナーをすでに実施し、地域の方々に熱心にご参加いただき、貴重な意見交換の機会を得ました。</p>	○	<p>運営推進会議の実施を通して地域の人々とのかかわりあいを更に強めていく。</p>
---	---	---	---	--

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>開所1年が立ち、ようやくグループホームらしさが形作れるようになりました。外部評価の機会を得て更に職員の意識向上を図っております。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は市から開催促進の知らせがあり検討中です。</p>	○	<p>自治会長・民生委員・ご家族の参加了承頂き、会議実現に向けて準備中である。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>特に近隣の奈良地域ケアプラザとは連絡を取り合い、教えを受ける機会を多く設けております。</p>	○	<p>今後、運営推進会議を活用していこうと考えている。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度の利用を検討している入居者がおられ、共に学ぶ良い機会を得ました。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待については関連法についても知識を深め、虐待のないように細心の注意を払って介護に努めております。また、虐待に至る介護者の心理的ストレスについても理解し、認知症介護における職員の心理的負担を軽減できる職場環境作りに努めております。</p>		

項目

取り組みの事実
(実施している内容・実施していない内容)

(○印)

取り組んでいきたい内容
(すでに取り組んでいることも含む)

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を通して入居時には詳しく説明を行い理解を得ております。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は出来る限り利用者と個別にコミュニケーションをとり、そこで得た意見を尊重しています。また、行政とホーム管理者の連絡先を、苦情相談窓口として、わかりやすい玄関先に掲示しております。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時を利用したり、電話などで折に触れ、連絡を密にする努力をしております。	○	定期的にホームからのお便りを発行し、行事の様子なども含め全体の様子や、ホームの方針などを伝えていけたらと考えている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情を遠慮なく表明していただける関係作りに努めております。契約書にも、相談窓口の連絡先を明記し、また匿名でも意見を表明できるよう、玄関先にご意見箱を設置しております。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回介護職員会議を行い、意見を持ち寄り話し合う場を設けて、検討・改善を図っています。また、介護職員の意見は、月に3回の法人幹部会議に持ち込み、経営に反映されるように議題として提出しております。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者様の体調変化等に応じて、必要な場合は緊急にシフトの調整をし、入居者様の安全確保を堅持しております。	○	入居者様の状態の変化に応じて、今後も早番・遅番の時間帯をずらすなど、柔軟に対応していけたらと考えている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在まで馴染みの職員の異動はありませんが、産休に入る予定の職員があり、入居者様にも安産を祈って喜んでいただいております。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み	職員が研修に参加する機会を積極的に設け、職員自身から		

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングをしていくことを進めている	の参加希望も受け付けております。日常業務の中でも、個々の職員の経験や能力に応じて、認知症介護における留意点を随時指導し、また、法人内の他のホームの見学なども実施しております。	○	今後も継続して職員研修をしていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新しいホームという事で、外部同業者からの見学申し込みも多く、見学を通して同業者の目に触れる事で、職員の意識の向上に役立っております。	○	法人として、いくつかのグループホームを運営しているため、その強みを最大限生かし、職員研修や意見交換・相談の機会を広げていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内で共済会が発足。年に数回ですが、グループホーム職員が集まり、ボーリングなどで親睦を深めストレス発散しております。また、管理者は意識的にスタッフとのマンツーマンでの話し合いの機会を設け、意見交換やストレス解消ができるよう留意しております。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日報を運営者が確認し、職員の勤務状況を把握しています。入職時の研修や、レポートを通しての意思表示を推進し、また定期的に全職員の自己評価を実施し、努力や実績を公平に評価しております。	○	管理者が、運営者と現場職員の橋渡しとなり、現場の声が運営に生かされることを期待している。

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者様宅を訪問してお話を聴く機会を作り、できる限りグループホームの見学をして頂き、安心感を得られるよう努めております。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居様宅への訪問・グループホームの見学・電話相談など納得いくまで相談を受け容れる配慮をしております。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の心身の状況を客観的・長期的に把握し、ご本人にとって最善の生活が出出来るよう支援しています。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホーム見学の際、既入居者様の輪に加わってお茶を飲んだり、一緒に談話したりという機会を作って、グループホームの雰囲気になじめるよう配慮しています。入居前に3～4回の見学を経験された入居者様も、複数おられます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常業務で常に念頭においている視点は、職員は介護するのではなく、共に生活するという事です。昔からの伝統行事のこと・日常生活、家事に関すること・人と人とのかかわり合いの方法など、入居者様から学ぶ事が多々あります。	○	現在のケアを継続していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意向を常に尊重した支援に努めております。またご家族の主導で昼食作りをする機会があるなどの関係が出来つつあります。入居者様もとても喜び、次への期待感を持たれております。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の本人・家族の関係を理解するように努め、グループホームにいることによって今までとはまた異なる良い関係になれるように配慮しております。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方から入居された方もあり、以前のなじみの場への再訪はなかなか実現しませんが、なじみの方への電話のやり取りなどは、職員の配慮で継続しております。	○	帰宅願望のある方、入居の経緯を受け入れられない方などには、以前の生活と分断された生活からくる喪失感を感じさせないよう、さらなる工夫が必要と感じている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ウマが合う、合わないの関係が徐々に見え隠れするようになりましたが、職員の細やかな配慮で孤独感を抱かずに、お互い様という環境作りに工夫しています。	○	今後も工夫を続けていく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了のケースは未だありません。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との面談内容と、日頃の訴え・行動からかんがみたご本人の意思を総合的にアセスメントし、ケアに生かしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談で、必要な生活歴等は把握しますが、入居後にスタッフとの関係を深める中でも、さらに情報を得るように努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居直後や、状態に変化のあった時には特に、記録や申し送りを密にし、スタッフ間の認識を統一するようにしています。また、ケア確認表の形でスタッフに見易い書式を工夫し、統一した認識を持てるよう、努めております。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人とスタッフ、家族とスタッフそれぞれに話し合う機会を持ち、意見交換をした上で、ケアプランを作成しています。	○	面会の頻度の少ない家族も多いため、話し合いの機会が確保できる様工夫していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実現可能なプラン作成を心がけております。ご本人の状況に変化があれば1ヶ月から、変化がなければ3ヶ月を目安に、随時見直しを行っております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	主に日々の生活記録と連絡ノートの内容に加え、申し送り等でスタッフと交わす意見をもとに、情報の共有に努め、ケアプランの実践、見直しを行っております。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前の相談の段階から、経験豊富な相談員が、行政や他事業所の利用も紹介しながら、最善の支援を心がけております。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣のケアプラザ、地区センターの行事には地域住民の一員として参加し、入居者様の社会性の維持に役立てております。近隣の交番にも協力を仰ぎ、ホーム周辺の見回りと、必要時には捜索等協力していただけるよう、依頼しております。	○	ボランティアの活用についても、今後受け入れの幅を広げて行きたいと考えている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の介護サービスを利用している方は、未だおりませんが、他事業所のケアマネジャーとも連絡を取り合い、関係を維持して、幅広いサービスを視野に入れて支援しております。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度の利用についても、知識を深め、必要な際には活用できる準備をしております。奈良地域ケアプラザとは同地域の事業所としてスタッフも行き来し、密接な関係を築いております。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業母体である橋本クリニックの全面的な協力を得ながら、週1回の医師の往診、2週に1回の看護師の訪問の他にも、提携歯科の往診や近隣の医院への通院を行っております。	○	実施できている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	事業母体である橋本クリニックの橋本理事長は、有料老人ホーム、複数のグループホームにおいて医療に当たっており、認知症患者に関する知識、経験とも豊富であり、適切な医療を提供しております。		
	○看護職との協働	法人内の有料老人ホームに常駐している看護師が週1回		

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人内の有料老人ホームに常駐している看護師が週1回のペースでホームにも訪問巡回を実施しており、入居者様も訪問を心待ちにし、健康管理に加え精神的支えにもなっております。又、看護師は、携帯電話を24時間所持し、随時相談に当たれるよう待機しております。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	最近、入院者が1名あり、病院・家族と連絡を取り合っています。	○	入院後も、ご本人や家族の不安を和らげ、長期的な介護の視点に立っての助言・協力を惜みず、信頼関係を維持していく努力をしていきたいと考えている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時契約において、医療加算と終末期医療に関する説明、同意書を交わしており、また必要な時期には面接や電話連絡において医師、ホーム、家族、ご本人の認識と方針の共有を図っております。	○	橋本クリニックの全面バックアップにより、入居者の最善の方法を考えている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来る限りグループホームの馴染みの環境の中で、ご本人が安心して、残された力を活かして暮らせる事を大切に考え、グループホームにおける医療のさらなる充実をはかっております。またホーム内での医療の限界も、冷静に見極めていく必要も感じております。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時における環境の変化が、ご本人にとって最小限の影響で済むよう、入居のタイミングには細心の注意を払っております。場合によっては各ケースごと予定時期を変更して対応しております。また介護・看護サマリーは必ず共有するようにしております。	○	入院時のサマリー提供について、緊急時に早急に提示出来る様、事前に揃えておきたいと考えております。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底	常に入居者のプライバシーを確保し、必要とする努力、介護の面で		

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に牛長者に対する言葉かけになるよう努め、誘導の必要な方にも、指示的にならないさりげない声かけをおこなっております。また記録にはプライバシーを配慮してイニシャルで記す事を徹底しています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の意向を優先させるのではなく、入居者様の意思表明を気長に待つ支援を心がけています。また、なるべくマンツーマンでのスタッフとの関わりあいの機会を持ち、心のうちを明かせる関係作りに努めております。	○	現在のケアを継続していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの入居者様のペースを尊重した暮らしに努めています。入居当初は生活のペースがつかめず、戸惑っていた入居者様もおりましたが、現在は個々の日課が自然に出来上がり、同じ空間で安心感を得ながらも、個々の趣味や日課に没頭する姿もみられ、自然で家族的な雰囲気が流れております。	○	今後もその人らしさを存分に活かしケアを工夫していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	髪形についてはご本人の意向を尊重して支援しています。こだわりを持っている方は、希望の美容院でカットし、訪問美容も利用しています。希望時や季節の変わり目には、衣類を購入しに、近隣の衣料品店に出かける等しております。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日活発な調理風景がみられており、入居者様はほぼ全員が参加、張り合いに感じておられるようです。男性入居者も自然な形で、配膳や片付けに参加しておられます。また、日々の入居者様の話題の中から、食事の好みや思い出の味を再現し、皆で味わう喜びを感じていただいているようです。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙の習慣がある方には、火気の扱いに留意しつつ楽しみを続けられるよう支援しています。入居者様の希望に沿っておやつ作りもしています。	○	今後も共同生活の枠の中で、個々の自由な生活を続けられるよう、工夫していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを見極め、むやみな声かけをしない工夫を心がけています。入居後、自立排泄が可能になった方も複数おられます。	○	実施出来ている。
	○入浴を楽しむことができる支援	基本的には午後から入浴していただいておりますが、宿る前		

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には十時から入浴しているにいており、寝る前を希望する方には意向に沿っています。入浴を好まれない方にも、声かけを工夫し、体調に応じて無理強いにならぬよう配慮しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの習慣や体調を尊重して安眠できるよう努めています。日中は散歩や家事活動に活発に身体を動かすことで、夜間は安眠できている方が多いようです。		

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各入居者様の生活歴をかながみ、昔とった杵づかを活かし、役割や娯楽を日課に取り入れる工夫をしています。ぬか漬作りや、家庭菜園、カラオケ、油絵、囲碁将棋、地域の生け花教室への参加など、入居者様主導で多彩な趣味活動に取り組まれています。	○	現在のケアを引き続き発展する努力をしていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主に大きな金銭管理は事務室にて行っておりますが、入居者様には小銭を身近に所持していただくことで安心感を持てるよう配慮しております。買い物や外食の際には、ご自身でお金を払っていただくなどし、社会性や遂行能力の維持に努めております。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調に応じて、近隣の散歩、食料品の買い物や外食など、できるだけ戸外へ出かけることにより、体力や歩行能力の維持に加え、気分転換や日々の充足感を得られるよう配慮しております。	○	実施できている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一度のペースで、数人での自動車での外出の機会を確保し、気分転換を図っております。またご家族の協力が得られる場合には、ご家族とのみずいらずの外出や、帰宅・外泊の機会がもてるよう、協力しております。		希望を言える方ばかりでなく、訴えられない方にも、ご本人の好みや気分に応じた外出等の機会を、平等に確保していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば家族・知人に電話をする支援をしています。ご本人から申し出がない場合では、遠方に家族がいる入居者様には、頃合をみて電話をする支援を心がけています。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援	いへては、訪問を受け入れ、一人ひとりの清慮を念頭に		

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも歓迎し、訪問を受け入れ、ゆつくり遠慮なくご本人と過ごせるよう配慮しています。面会室などはありませんが、ご本人の居室や、共有のリビングで、寛いで過ごしていただいております。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の弊害を理解し、見守りの必要な入居者様にも、手厚いマンツーマンの対応をする事で拘束の必要のない介護を工夫しております。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	構造上、玄関はオートロックのドアですが庭の水まきや散歩など、職員の見守りの上で、自由に出入りできる雰囲気大切に、閉塞感がないように配慮しております。	○	現在の我が家的な自由な雰囲気を維持継続していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に、職員はさりげなく全体を見守りやすい位置にいて、入居者様の様子を把握できるよう心がけております。夜間は2時間ごとの巡視をおこない、事故や急変に備えております。	○	実施できている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ・包丁等、日常生活上必要なものは、入居者様の状態に応じて、臨機応変に使用していただいております。ただし保管は決まった場所にて徹底しております。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒・誤薬等事故を未然に防ぐ細心の配慮を全職員が心がけています。入居者様の身体能力や理解力・遂行能力を適切に見極め、行動を予測して、過剰管理にならないような介入を心がけております。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には訓練を行っていませんが、急変時初期対応はマニュアル化し、周知徹底しております。	○	応急処置等の講習会への参加や、ホーム内での勉強会の実施を検討していきたい。
	○災害対策	地域の避難場所を確認し、緊急移動用の車検を確保して		

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の避難場所を確認し、緊急移動用の準備を確保しております。また、緊急時は職員を招集できるよう、連絡網を作成しております。以前から住んでいる地域住民の親身な協力が、緊急時にも生かされることを期待しております。	○	地域の防災訓練などには積極的に参加したいと考えている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	つまづき、転倒など身体状況に応じてのリスクを家族に説明し、必要な際は安全な履物を工夫したりベッド柵を使用するなど、事故を未然に防ぐ努力をしております。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタル測定をし、普段との比較で体調を観察。必要な場合は申し送り等での情報の共有を徹底しています。また、少しでも異常や疑問を感じる際には、看護師や主治医の携帯電話に連絡し、相談に応じてもらい、適切な対応をしております。	○	現在のケアを継続していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの処方箋・説明書をファイルして全員が把握出来る様にしてあります。薬の変更の際にも理由等を連絡ノートに記載し、職員全員が把握・状態観察に努めております。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘解消の食材を調理に加えたり、体操をしたり工夫をしています。個人差はありますが、おおむね便秘が3日続くと看護師に相談・指示を仰ぎます。	○	実施している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけをし、支援が必要な方には手助けをしております。入居当初は口腔ケアの習慣の無かった方も、ホームに来て、徐々に口腔ケアの習慣を身につけていただけているようです。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通して食事量・水分摂取量を記録、一月に一度は体重測定をし、低栄養や脱水におちいらないよう配慮しております。糖尿病などで栄養管理の必要な方にも、医師の指示のもと、適切な支援をしております。		
	○感染症予防	保健師からの感染症予防の講習会には、積極的に参加		

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	保健所などの感染症予防の講習会には、積極的に参加し、感染予防策について職員に周知しております。また、主治医・看護師より感染予防策についての資料の提供と具体的な助言を受けて、実施しております。	○	管理者を中心に、感染症の初期症状についての知識をさらに深め、様々な症状を適切に見極めて早期に対応していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具やキッチンの消毒を毎日行う事を徹底し、食中毒予防には細心の注意を払っています。当日の食材は残さないで処分し、肉や魚は短期間でも冷凍保存するなど食品の安全には特に留意しております。入居者様にも、うがい・手洗い・消毒の徹底にご協力いただいております。	○	管理者を中心に、食中毒・感染症に対する知識をさらに深め、入居者様を危険にさらす事の無いよう、常に徹底した管理をしている。

2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1)居心地のよい環境づくり

80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花の鉢を入居者様と共に植えるなど家庭的な玄関回りになる工夫をしています。緑の多い住宅街であるため、周りの雰囲気に合わせて、緑多い、あたたかな雰囲気のホームを目指しております。	○	今後も、近隣との調和を考え、努力していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適性に配慮してBGMになじみの曲を流し、季節の花を飾るなどの工夫をしています。日差しはレースのカーテンで調整しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、ソファで気の合う同士座ったり、テラスで日向ぼっこができる様にベンチを置くなど、お好きな所でのんびり過ごせるよう配慮しています。また、あえてリビングに背中を向ける席を設け、他者の視線から逃れる空間を作り、共同生活におけるストレスの軽減に配慮しております。	○	実施している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居段階で、ご自宅から使い慣れた家具類を持ち込んでいただけるようお勧めし、馴染みの雰囲気で、自宅であるという実感と安心感を得られるよう、配慮しております。仏壇や、思い出の写真なども飾り、これまでの生活の延長として暮らせる配慮をしています。		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>入居者様の体調を十分に考慮して換気・温度調節を図っております。トイレは常に換気して気になる臭いの除去に努めております。</p>	○	<p>実施できている。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部はバリアフリーで廊下・トイレ・浴室に手摺りを設置しております。歩行空間には障害物がないよう配慮し安全が保てるよう配慮しております。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>わかる事・出来る事を適切に把握し、個々の入居者様に合わせたハード面の整備・工夫に努めております。手作りの表札や矢印、のれんの使用など、わかりやすく、かつ家庭的な雰囲気心をかけております。また、出来る事には、先取り介助をしないよう職員に周知しております。</p>	○	<p>現在のケアを継続し、自立維持に工夫をしていく。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関前や庭で園芸作業をする事が日課となりつつあります。ベランダでそれを眺めたり、日向ぼっこをしたりを楽しみを持っております。また、晴れた日には布団や洗濯物を干したりという、ごく家庭的な風景が、日常的にみられております。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

最初の入居者様が入居されたのが昨年8月21日、少しずつお仲間が増え、ようやくこの5月20日で満室になったばかりの新しいホームです。入居者様の増加に合わせて、職員の体制もじつくりと充実をはかり、やっと完成に近づいているという現状です。在宅介護・施設介護・他職種など、多彩な経験を持つ職員が集まり、日々入居者様と向き合い、試行錯誤を繰り返す中で、「できることを奪わない(先取り介助をしない)」「年長者への自然な尊敬の態度と言葉遣い」「昔とったきね杵への尊敬と尊重」「認知症の世界に付き合う」「我慢して待つことが我々の仕事」など、様々な大切なことを学び、実践してまいりました。ふあいと青葉での自然な日常生活の中で、身体的にも精神的にも穏やかになれる入居者様が多いことが、職員にとっても嬉しい驚きであり、やりがいの実感・士気高揚にもつながっております。これからも、グループホームらしさにこだわりながら、医療法人である強みも活かし、入居者様に安楽で生き生きとした生活を送っていただけるよう、謙虚な姿勢でお手伝いをさせていただきますと考えております。